



チーム嶋村 ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.



第5号 2022年11月発行

親愛なる会長のみなさん

こんにちは。お元気でしょうか？

スタート型の地区大会を9月に開催、ガバナー公式訪問も10月末までに52のクラブで実施し、残すところ18クラブになりました。各クラブのみなさんにはたいへんにお世話になっています。自分自身多くの学びの機会をいただき、感謝の一言です。多くのクラブでガバナー公式訪問フォーラムを開催していただきました。「対話」を通じて課題を確認し、クラブコミュニケーションの大切さをご理解いただけたのではないのでしょうか？ これからも対話とTake Actionを繰り返しながら、元気なクラブづくりに邁進して欲しいと願っています。

1. 世界ポリオデー2580を実施いただきました

ロータリーの最優先課題はポリオの根絶です。本年度初めて、地区としてクラブのみなさんに世界ポリオデーのイベントを開催することを奨励してきました。ガバナー信条の一つ、「Reach Out for World Peace 世界の平和のため手を差しのべよう」に基づき「ポリオ根絶活動は世界平和の道標」として、クラブやグループ単位でさまざまな形でポリオ根絶の街頭活動を開催していただきました。コロナ禍により、奉仕活動が停滞する現状を考えたプロジェクトでもありません。クラブのみなさんが元気に活動をするきっかけになった



のではないのでしょうか？ 「END POLIO NOW」の赤いシャツを着てTake Actionすることは、それぞれの地域社会にインパクトを与え、ロータリーのストーリーを伝えることができたのではないのでしょうか？

チーム嶋村 ガバナー月信

ポリオのない世界を目指す活動は、平和を願う世界のロータリアンとつながっているということと自らがロータリアンであるということを実感する機会になったのではないのでしょうか？ 今回の世界ポリオデーをきっかけに、今後も元気なクラブづくりにつながる活動を展開して欲しいと願っています。

2. 11月はロータリー財団月間です

11月がロータリー財団月間であることをご存知ですか？

ロータリー財団の使命は次のとおりです。

「ロータリー会員が、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築できるよう支援することです」

言い換えると、私たちは世界を変える行動人として、ロータリー財団の素晴らしい意義を理解し、手を取り合って、世界平和を目指して行動しようということです。

ロータリー財団の歴史は、1917年、アーチ・クランフ 1916-17年度 RI 会長が、「世界で良いことをする」ために基金の設置を提案したことに始まりました。最初の寄付額は 26 ドル 50 セントから始まりますが、2021年6月時点の収入合計（寄付と投資収益）、5億4528万5000ドルと大きく拡大してきました。2022-23年度ロータリー財団管理委員会委員長であるイアン・ライズリー元 RI 会長は「ロータリーに関わる全員がこの偉大な遺産の一部であり、財団の活動を今後も続けていくことは私たちの責任です」とします。2年余りに及ぶコロナ禍でも、私たちロータリアンは、ロータリー財団への寄付、人道的支援の継続をしてきました。新型コロナウイルスへの対応はもちろんのこと、今年2月24日に開始されたロシアによるウクライナへの軍事侵攻に対する災害救援補助金を素早く実施しました。337件の災害救援補助金（総額1,100万ドル）を授与し、水・食料・シェルター・衣料品といった救援物資、消防車、モジュールハウスなどのさまざまな支援のために資金が活用されています

（参考 URL：<https://www.rotary.org/ja/rotary-responds-ukraine-crisis>）。

他方、ウクライナから避難されてきた人々の支援やその人たちの平和への切実な声を聴く機会を作るなど、今後も私たちが寄り添うことは、正に「奉仕の理念」（Ideal of Service。他人を思いやり、そして他人のために尽くすこと）に基づく行動であり、ロータリーの目的そのものであるといえるでしょう。

「Reach Out for World Peace 世界の平和のため手を差しのべよう」でもあります。今後もクラブ内で話し合うべき大切なテーマであると感じています。

本年度は地区としてロータリー財団への寄付額の目標設定をしませんでした。これは、9月17日に開催されましたロータリー財団セミナー、12月3日に開催予定のロータリー財団補助金セミナーと合わせて2回のロータリー財団セミナーを経て、会長やロータリー財団委員長 みなさんにロータリー財団の意義を改めてご理解いただいた上で、寄付について考えていただくという方針によります。また、11月のロータリー財団月間には、ロータリー財団委員長 みなさんに自クラブの例会で卓話ができるように、地区ロータリー財団部門がパワーポイント資料を作成し、配布させていただきます。私は、ロータリーの理解のためには、自身で卓話を行うことだと考えています。会長 みなさん、ロータリー財団委員長による卓話のサポートをよろしくお願いいたします。さらに、クラブ みなさんでロータリー財団について理解を深めるためのディスカッションもよろしくお願いいたします。

本年度より、ロータリー財団地区補助金についても、ローターアクトクラブからの申請が可能になります。ローターアクトクラブを提唱しているクラブにおかれては、ローターアクターの発想を活かして新分

チーム嶋村 ガバナー月信

野への奉仕プロジェクトを検討してはいかがでしょうか？ また、物資支給型や継続的支援だけではない奉仕プロジェクトを考えてほしいです。たとえば、行政の目が届いていないなど、社会的に日が当たっていない人々に対してです。私たちロータリアンがどんな奉仕プロジェクトを見付けられるかは、日頃より地域・社会・世界の問題に関心を寄せているかどうかにかかっています。奉仕プロジェクトは「クラブでの実験場」であるといわれています。会員のみなさんがさまざまな奉仕のアイデアを持ち寄り、話し合うことは、クラブコミュニケーションがアップし、元気なクラブづくりにもつながります。私はこのような奉仕活動が理想であると思います。未来につながる新しい奉仕プロジェクトをクラブのみなさんでご検討いただきたいです。多くのクラブからの地区補助金の申請をお待ちしております（今月号の鼎談「クラブ活性化のための地区補助金の活用法と新しい重点項目「環境」を学ぶ機会の提供」があります）。

なお、地区補助金でも申請要件に該当すれば、海外での奉仕プロジェクトに活用できます。そのようなクラブでの海外での奉仕プロジェクトの積み重ねが、グローバル補助金につながっていきます。海外のクラブと協力の下、大規模で長期のプロジェクトの実施が可能になります。グローバルグラントともいわれるグローバル補助金は、7つの重点分野に限られています。「平和構築と紛争予防」「疾病予防と治療」「水と衛生」「母子の健康」「基本的教育と識字率向上」「地域社会の経済発展」、そして「環境」です。グローバル補助金にご関心があれば、地区ロータリー財団部門へお気軽にお問い合わせいただければと存じます。

3. 11月5日を含む1週間は「世界インターアクト週間」

毎年、11月5日を含む1週間は、世界インターアクト週間に指定されています。当地区は前年度に新しく3つのインターアクトクラブ（東京女子学院中学校高等学校 IAC、日本体育大学桜華中学校・高等学校 IAC、文京第5団 IAC）が設立され、合計12のインターアクトクラブがあります。それぞれの活動はさまざまですが、スポンサークラブのロータリアンが例会に出席し、卓話を通じてロータリーの心を伝え、奉仕活動を合同で行うことを推奨しています。「世界ポリオデー2580」では、ほとんどのインターアクトクラブがポリオ根絶の街頭活動に参加されたようです。嬉しく思っています。

インターアクトクラブは、12歳から18歳までの中学生・高校生が地元のボランティア活動や海外のインターアクターとの交流を通じて視野を広げ、国際感覚を養うことができます。本年度は8月に新モンゴル学園インターアクトクラブとの交流を行うモンゴルスタディーを計画していましたが、新型コロナウイルスの前に残念ながら中止になってしまいました。

今後、私たちロータリアンの参加型の奉仕活動についてインターアクターとの交流を進めるとともに、インターアクターのアイデアを活かした奉仕活動を共同で開発することも必要ではないでしょうか？ ガバナー信条の一つは「Take Action for Rotary Future ロータリーの未来のために行動しよう」です。私たちの未来となるインターアクトクラブの設立を考えてみませんか？ 会員のみなさんの対話の中に、学校とのつながりがある会員が見付かる可能性もあります。私の所属する東京東江戸川 RC は、愛国学園 IAC を提唱し、インターアクターに対してさまざまな成長の機会を提供しています。インターアクターとの交流や奉仕活動を通じて、私たちロータリアンが学ぶこともあります。元気なクラブづくりにつながっています（今月号に東京ワセダロータリークラブによる「ロータリーファミリーとの献血活動 ロータリーアクターとインターアクターの感想」があります）。

チーム嶋村 ガバナー月信

私のロータリーモーメント（心に残るロータリー体験）⑤：

「いじめ防止 青い鳥プロジェクト」

私の会長年度、2017年2月、地区補助金を活用して「いじめ防止 青い鳥プロジェクト」を実施しました。きっかけは、私の長男が中学校に入学してすぐに、学校でいじめに遭ったからでした。私の会長年度に、いじめ問題にトライしたいと考えて準備をし、地区補助金の申請を行いました。プログラムは次の3つです。

- ①重松清原作「青い鳥」の映画上映会
- ②学校でのいじめが原因で子どもが自死した親の会「ジェントルハートプロジェクト」の講演会
- ③いじめ防止生徒会フォーラム（区内17校・90名参加）

このプロジェクトの実施にあたっては、江戸川区教育委員会との協議、江戸川区校長会への説明会の実施、参加校集めなど、3名のプロジェクトメンバーを中心に準備を進めました。特に印象に残っているのは、いじめ防止生徒会フォーラムです。15班に分かれてのテーブルディスカッションのファシリテーターは、私たちロータリアンとローターアクターが担当しました。参加した生徒会役員のみなさんがその成果を持ち帰り、各校のいじめ防止対策に活かされたとともに、地域社会における子どものいじめ問題への警鐘になりました。その後、嬉しいことに、このプロジェクトが江戸川区校長会から評価され、翌年から2年間、テーマを変えて「江戸川区立中学校生徒会フォーラム」の運営補助を依頼されて実施することができました。ローターアクターやRYLA学友と共にファシリテーターを担い、東京東江戸川RCの青少年奉仕活動の目玉にもなっています。新型コロナウイルスの感染拡大により3年間のお休みがありましたが、来年1月28日（土）の開催が決まりました。



ロータリーの奉仕活動が地域の学校教育に根差すプロジェクトになりました。私にとって大切なロータリーモーメントです。

2022年11月1日

国際ロータリー第2580地区ガバナー 嶋村文男

※ガバナーへのメッセージをお待ちしています→ info@motoffice.jp

チーム嶋村 ガバナー月信

チーム嶋村ガバナー月信編集委員会レポート

【速報】あらかわ遊園世界ポリオデー

執筆：地区ガバナー月信編集委員会 委員長 茂木正光

10月23日（日）、東京荒川RC主催の「あらかわ遊園世界ポリオデー」が開催されました。中條勉会長、石川幸男地区公共イメージ委員会ポリオデーチームの石川幸男リーダーらが「ポリオ根絶」の横断幕を掲げ先導するの、地元中学校のブラスバンド部によるマーチングバンドが続き、ポリオ根絶のパレードを行いました。その後、地元の小学生とロータリアンと一緒に募金活動を行いました。中学生たちがブラスバンドで盛り上げ、小学生たちが募金のために声を張り上げていました。また、模擬店も数多く出店し、焼肉丼や焼きそば、フランクフルト、発酵ジンジャーエールなどが販売されていました。発酵ジンジャーエールの販売はローターアクターが担当していました。この売上げの15%もポリオ根絶のための寄付になります。子ども向けの遊園地「あらかわ遊園」に続く遊歩道で開催されたこともあり、親子連れも多く、楽しい雰囲気の中で奉仕活動が行われていました。また、いろいろなクラブのロータリアンが多数参加していました。

パレードの時に、通りすがりの年配の方が「ポリオって何だ」と独り言をされていました。「あらかわ遊園世界ポリオデー」に参加した地元の小学生や中学生だけでなく、そのような方にもポリオ根絶を知り、理解する機会になったのではないのでしょうか？



【速報】武蔵野分区ポリオ根絶街頭活動

執筆：地区ガバナー月信編集委員会 委員 岩井昭治

10月23日（日）午前、武蔵野分区主催で麻ガバナー補佐の所属する東京小平 RC をはじめ東京武蔵野 RC、東京田無 RC、東京東久留米 RC、東京保谷 RC、東京武蔵野中央 RC のロータリアンと嘉悦大学 RAC のローターアクター、武蔵野 RC の米山奨学生、東京ワセダ RAC のローターアクターが参加して JR 吉祥寺駅北口でポリオ根絶の街頭募金活動を行いました。北口東から中央口にかけてのアーケード下とサンロード入り口付近で6～7のチームに分かれ、「END POLIO NOW」と書かれた赤い世界ポリオデーT シャツを着用し、赤い「END POLIO NOW」ののぼり旗、そして各クラブののぼり旗を立てて募金活動する様子は吉祥寺の雑踏の中でひと際インパクトのあるものでした。

地区大会の特別公演「ポリオとロータリーと私」で関場慶博さん(第 2830 地区パストガバナー)の講演で「ポリオワクチンを最後の一人になるまで届けます。ポリオのない世界を想像しましょう。ポリオの恐怖から解放することはロータリーだからこそできることです。ロータリアンとしての誇り、自信を持って行動しましょう」とありました。それに共感した武蔵野分区のロータリアンのみなさんが一丸となる様子をみることができました。



END POLIO Cycling Challenge 2750 お手伝い記録

執筆：東京新都心ロータリークラブ 梅野慶太

宮崎陽市郎第 2750 地区ガバナーエレクト（以下、宮崎 GE）が「END POLIO Cycling Challenge 2750」と題して、ポリオ根絶活動を広く知ってもらい、ポリオ寄附の推進を目的に、ロードバイクで日本縦断にチャレンジしています。10 月 1 日に北海道の宗谷岬を出発し、10 月 24 日の世界ポリオデーに帰京を目指し、10 月 23 日の鹿児島県の佐多岬のゴールを目指しています。

私、梅野も宮崎 GE とご縁があり、10 月 10 日、新潟市から糸魚川市まで自転車による並走 150km と、翌 11 日、糸魚川市から富山県砺波市までのサポートカーの運転手を務めてきました。10 日は、天候が悪く雨、そして日本海に出たからは逆風との戦いでした。宮崎 GE とは 10 分おきに先頭交代をして何とかゴール近くまでたどりつきました。ゴール数キロ手前、個人的には精も根も尽き果てる直前、沿道から赤い T-シャツを着た方から応援があり良く見てみると、第 2560 地区（新潟）の米山ガバナーエレクトをはじめ多くのロータリアンのみなさまが赤い「END POLIO NOW」の幟とともに、宮崎 GE を応援する横断幕まで作って待っていてくれました。東京から遠く離れた新潟で、体力の限界も近いなか見た、ロータリーのロゴとみなさまからの声援は本当に涙が出そうになりました。同じようなことが、ここまでの行程で多々あったようです。

宮崎 GE が思い付き始めた行動が、多くのロータリアンを巻き込み、その応援するロータリアンがまた宮崎 GE の背中を押しているのだと思いました。また、ロータリアンの持つホスピタリティは、ロータリークラブがポリオ根絶に限らず、「誰もが社会を良くする運動」を始めることのできる可能性を秘めたすばらしい団体であることも改めて感じました。宮崎 GE の無事のゴールを心よりお祈りしております。

※編集者注：上記は入稿時点（10 月 12 日）の内容です。



環境保全クリーン活動報告 ～「上野公園クリーン活動」の事例紹介を含めて～ 執筆：地区社会奉仕部門環境委員会 委員長 横山武志

本年度提唱しました「環境保全クリーン活動」に多くのクラブに賛同をいただき、数多くの企画が実施されました。「環境保全クリーン活動日」として設定した7月31日(日)及び9月25日(日)を中心に、各クラブの事情に合わせて2022年10月末までに16箇所での実施となりました。主催クラブは、共同開催も含め関わったRC数は24クラブにもなり、年度初めの活動ながら、全体の1/3以上のクラブの参加となりました。

在京 RC：17クラブ 衛星クラブ：1 RAC：3クラブ

沖縄 RC：7クラブ RAC：1クラブ

また、社会奉仕事業として、参加型の奉仕活動を提唱しています。自クラブの奉仕活動に他クラブからの参加を受け入れ、クラブ同士及びロータリアンの横のつながり、交流を促進することを推奨しております。これまでの実施活動中、他クラブからの参加を受け入れた「他クラブ参加型」が3か所、また近隣クラブ等を中心とした複数クラブが主催となった「複数クラブ共催型」として4か所で開催されました。

<複数クラブ共催の環境保全クリーン活動>

- 田無駅北口広場周辺のクリーン活動 東京田無 RC・東京保谷 RC
- 那覇市波の上ビーチ清掃活動 那覇 RC・RAC 東京ワセダ RC・RAC
- 荒川クリーンエイド 東京江戸川 RC 東京江戸川中央 RC
東京東江戸川 RC・RAC
- 上野公園クリーン活動 東京北 RC 東京小石川 RC 東京上野 RC・RAC
東京本郷 RC 東京後楽 RC
東京北 Exchange ロータリー衛星クラブ

「上野公園クリーン活動」は、東京北 Exchange ロータリー衛星クラブが幹事となり、高橋義一北分区ガバナー補佐の担当する5つクラブが参加した活動となりました。近隣クラブが協力し、一つの事業を行うことは、今まで奉仕活動に対してあまり積極的でなかったクラブでも、交流も兼ねることで企画参加のハードルが下がり、またクラブのメンバーも参加の機会を得ることが出来るようになります。現時点でも実施予定の奉仕活動があり、他クラブ参加可能な企画があれば、ぜひ参加をお勧めします。また今後も企画のサポート等について、環境委員会でサポート可能ですので、その際はお声がけください。



地区内環境保全クリーン活動実施状況一覧（2022年10月まで開催）

実施クラブ	実施日 実施場所	活動内容	備考
東京田無 RC 東京保谷 RC	7/24（日） 田無駅北口広場	田無駅北口広場周辺 のクリーン活動	複数クラブ共催型
東京東大和 RC	7/30（土） 東大和市駅近辺	東大和市駅北口 ロータリーと公共ト イレの清掃活動	
那覇 RC・RAC 東京ワセダ RC・RAC	7/31（日） 那覇市波の上ビーチ	ビーチクリーン活動	複数クラブ共催型
東京江戸川 RC 東京江戸川中央 RC 東京東江戸川 RC・RAC	7/31（日） 荒川河川敷 東大島駅近辺	荒川クリーンエイド	複数クラブ共催型 他クラブ参加型
東京荒川 RC	9/25（日） 日暮里駅前	環境保全クリーン活 動	
東京北 RC 東京小石川 RC 東京上野 RC・RAC 東京本郷 RC 東京後楽 RC 東京北 Exchange ロータリー衛星クラブ	9/25（日） 上野公園・不忍池	上野公園クリーン活 動	複数クラブ共催型
東京臨海西 RC	9/25（日） 葛西海浜公園	葛西海浜公園 西なぎさビーチ クリーン活動	
宮古島 RC	9/25（日） 宮古島市熱帯植物園	平良恒道顕彰の 周辺清掃活動	
宜野湾 RC	9/25（日） 宜野湾市 いこいの市民パーク	蝶々ハウス及び周辺 の草刈り作業と「オ オゴマダラ」の食草 や樹木の植栽	
那覇東 RC	9/25（日） 西原きらきらビーチ	ビーチクリーン	
浦添 RC	9/25（日） 那覇市新都心公園	環境保全クリーン 活動	
東京小平 RC	9/25（日） 東京都多摩湖 自転車道桜並木	環境保全クリーン 活動	
石垣 RC	10/2（日） 伊野田海岸	ビーチクリーン活動	
那覇北 RC	10/16（日） 渡嘉敷島※予定	国立公園慶良間諸島 渡嘉敷島の海岸環境 保全活動	
東京浅草中央 RC	10/23（日） 浅草神社※予定	浅草神社周辺の 清掃活動	奉仕事業 併設開催型 他クラブ参加型
東京王子 RC	10/23（日） 荒川河川敷 東京都北区※予定	北区花火会 2022 河川敷清掃活動	他クラブ参加型

※10月末開催（予定）まで ※編集者注：上記は入稿時点（10月15日）の内容です。

クラブからのロータリー活動の情報提供 環境保全クリーン活動日 執筆：東京荒川ロータリークラブ

9月25日(日)、東京荒川ロータリークラブはローターアクターと共に日暮里駅前清掃活動を行いました。台風の後なのか、いつもよりゴミが溢れていました。ローターアクターの発案で、ゼッケンに環境保護を訴える文字を書き込み、アピールしました。

中條勉会長からのコメント：

「ロータリーはポイ捨てをしないような心を育てる活動をするところで、自ら清掃をするところではない！」と先輩方に怒られながらも、各々

が考えた環境保護を訴える言葉を胸と背中に貼り付け、台風一過の青空の下、清掃活動を開始しました。ローターアクターの「ガムはもう飲め！」という背中という言葉を見て、街を行き交う若者たちも微笑んでいました。自分たちの町を汚さない！という参加型の奉仕活動は、ほんのり汗をかき、この台風一過の青空のようにさわやかな気持ちでした。終了後のビールの泡の中に苦々しい先輩方の顔が浮かんで消えていきました。あのビール、うまかったなあ！



宮古島市熱帯植物園内、平良恒道顕彰（通称ロータリーの碑）の周辺清掃活動 執筆：宮古島ロータリークラブ

9月25日(日)、宮古島ロータリークラブは平良恒道顕彰の周辺清掃活動を行いました。

1745年、強風により漂流する船の平良恒道は同様に沈没寸前の船を見付け、自らの食糧や水も乏しい中、危険を顧みず救助しました。1974年、この史実に感動した平良RC（現宮古島RC）の砂川玄隆会長はこれこそロータリー精神の奉仕の理想ではないかと分区、地区に報告し、当時の遠隔地友愛委員会の協力を得、1975年、顕彰碑の建立に至りました。

下地充会長からのコメント：

会員は清掃活動を通して顕彰碑建立までの経緯を学び、奉仕の理想を再認識する良い機会となりました。



西原きらきらビーチにて、ビーチクリーン活動 執筆：那覇東ロータリークラブ

9月25日(日)、西原きらきらビーチにて、会員、会員家族、会員企業スタッフ、交換留学生とそのホストファミリー、そしてインターアクターと、約70名の参加で海岸に流れ着いたプラスチックゴミを中心に清掃活動を行いました。

池間守会長からのコメント：

当日は明け方に豪雨があり開催が危ぶまれましたが、晴れ間が広がり、クラブ会員、その家族、職場の方々、興南高校インターアクトクラブの生徒たち、青少年交換留学生、ホストファミリー等、総勢約70名が集まり、海辺の景観を実感しながらクリーン活動を行いました。当クラブは、先ごろ「おきなわSDGsパートナー登録」の認定を受け、地域のための奉仕活動に意欲的に参画しています。SDGs「海の豊かさを守ろう」を念頭に、持続可能な海洋、海洋資源を保全し利用する観点から、みなでプラスチックごみ等を回収し環境問題を考える機会として位置付け社会奉仕に励んでいます。プラスチックごみ以外にも一般ゴミや、軽石、遠方の海から流れ着いたものもあり、何かと考えさせられる1日でありました。終了後にはお弁当をいただきながら家族、職場の方々との懇親を深め、楽しく時を過ごすことができました。今後は趣向を凝らしながら、毎年実施できるよう取り組んでいきます。



クラブからのロータリー活動の情報提供

ロータリーファミリーとの献血活動 ローターアクターとインターアクターの感想

執筆：東京ワセダローターアクトクラブ、東京女子学院中学校高等学校インターアクトクラブ

9月25日(日)、10時から16時、新宿駅南口にて、東京ワセダロータリークラブ、東京ワセダローターアクトクラブ、東京女子学院中学校高等学校インターアクトクラブによる合同奉仕活動として、献血活動が行われました。コロナ禍で献血者数が減っており、輸血用血液の確保が厳しい状況です。当日は70名に献血をしていただくことができました

ローターアクターからの感想：

当日、私たちは採血に加え、通行人の方々へ献血の呼び込みを行いました。約4時間半の中、ロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブ合同でシフトを組み、さまざまな場所で街頭に立ちました。呼び込みをしていると、私たちへ視線を向け、近くの献血バスへ意識を向けていた通行人が多くいることに気付きました。啓蒙につながっていると強く感じました。このような啓蒙は、「今」の採血者数と紐づきにくいとしても、「未来」の採血者数へ確実につながっていく、重要な活動です。未来に対しての「良いこと」を行う、ロータリーファミリーとして活動する意義を改めて感じる事ができた活動でした。



インターアクターからの感想：

私は献血の呼びかけを通して、人の献血貢献度や血液についてなど、多くを学びました。その中でも特に、輸血を待っている人が1日3,000人以上いることに驚きました。血液の有効期限は短く、1回の輸血で3~4人の献血が必要とされていると知り、今まで遠い存在であった献血の積極的な参加の重要性を再認識できました。隣りでロータリアンのみなさんが訴えていたメッセージに胸を打たれ、途中からは拡声器を手に、ロータリアンのみなさんと同じメッセージを使い、呼び込みをする声にも力が入りました(高校3年生)。



献血について多くの知識を身に着ける良い機会となりました。18歳を迎えたということもあり、自身が社会に貢献できる活動の幅が増えたことを実感しました。新宿駅前という人の往来が激しい場所で、声を張り上げて呼び込みをするのは大変でした。しかし、ロータリアンのみなさんやローターアクトの先輩方と一緒に企画側として参加し、そばにロータリアンのみなさんやローターアクトの先輩方がいらしてくださったおかげで、自分も頑張ることができました。また、献血の際の雰囲気や献血に至るまでの流れを説明いただき見学することができました。今後、血液を提供する時に、とても行きやすくなりました(高校3年生)。

先輩たちと献血の呼び込みをして楽しかったです。あんなに人が多いところで呼び込みをしたのは初めてでした。献血のことを知ることができ、献血を身近に感じる事ができ、良い機会でした(高校1年生)。

チーム嶋村 ガバナー月信

「来日学生歓迎懇親会」開催の報告と ROTEX による卓話の機会の提供のお願い

執筆：地区青少年交換委員会 委員長 飯塚憲貴

「来日学生歓迎懇親会」開催の報告など：

9月25日（日）に、千代田区の学士会館にて、来日学生の歓迎懇親会を開催しました。93名の方々にご参加いただきました。

来日学生の入場は、来日して2か月足らずの期間にも関わらず、自国の旗を掲げながら堂々としておりました。その後の1分間のスピーチも、日本語が少しずつ話せるようになり、歓談時のホストファミリーやホストクラブとの会話時の表情も柔らかくなり、成長と親睦がたいへん進んでいることが窺えました。また、来年夏に派遣される第58期派遣学生12人へは、嶋村ガバナーから合格証の授与が行われ



ました。沖縄分区の2名はZoomによるオンライン参加でしたが、小さな親善大使としての責任を感じてくれたと思います。その後、派遣予定学生から、このプログラムに対する想いや意気込みを語ってもらいました。来年夏の出国までのこの1年間での成長が楽しみになりました。

派遣予定学生の派遣先国ですが、12月25日（日）、学士会館で発表が行われます。その後は、ケーキオークションも行われるクリスマス会も開催されます。希望する国に行ける派遣予定学生、予想外の国に行くこととなる派遣予定学生に励ましやアドバイスをしていただきたいです。ぜひご参加をお願いします。本年度は、コロナ過でも青少年交換プログラムに参加してくれていることもあり、たいへん前向きで、素直な派遣予定学生が集まっています。本年度、青少年交換プログラムに関わっていないクラブのみなさんにも、次年度以降の青少年奉仕プログラムの参考になると思います。青少年交換プログラムの各行事へのご参加をお待ちしております。参加した際にはぜひ、来日学生、派遣予定学生、そしてROTEX（青少年交換学友）と親睦と交流を図っていただき、ロータリアンとして世の中に良い影響を与えていただければ幸いです。

ROTEX による卓話の機会の提供のお願い：

青少年交換プログラムをより多くのロータリアンに知っていただきたく、各クラブでのROTEXによる卓話の機会の提供をお願いしております。来日学生、派遣予定学生たちにより多くの良い体験をさせるためには、地区からの予算では足りません。卓話をさせていただき、その謝礼を活動費に充てさせていただきたく、機会をいただければ幸いです。その際には、青少年交換プログラムのグッズ物販にもご協力いただきたいです。ROTEXの卓話に関しては、本年度の地区青少年交換委員か、ガバナー事務所までお問い合わせいただければと存じます。



青少年交換プログラムへのご理解とご協力を引き続きよろしく申し上げます。

「奉仕の理念」を再認識、ロータリーの未来への可能性に挑戦しよう

第4回 ロータリーの哲学「奉仕の理念」を明文化した決議 23-34号 その背景と意義
執筆：地区職業奉仕部門 部門長 藤掛靖元

会長のみなさま、こんにちは。前回までは「奉仕の理念」の意味と成り立ちについてでした。ロータリアンが自己研鑽によりロータリーの哲学である「奉仕の理念」をしっかり身につけ、奉仕の心で仕事や社会生活を日々実践し、自己、事業、業界、社会全体を向上させる運動、これがロータリーの本質と言えます。その一方で、みなさまの中には、奉仕の心を学びロータリアン個人が奉仕の実践するのは良いが、「クラブとしての奉仕活動の実践も大切」「理屈より実践だ」という方もいることでしょう。奉仕の在り方に対する考え方の違いですね。この考え方の違いが丁度100年前、大論争を引き起こしたのです。

ロータリーが創立して数年後、ロータリーの理論に精通したあるロータリアンが「理論を踏まえたら実践がなければならない、実践なくして理論の提唱はナンセンスである。」との考えの基、ロータリーは身体障害児への救済活動を展開させます。世間からはロータリーは身体障害児救援専門の団体と思われるくらいまでその活動は活発化しました。社会的弱者に対する人道的奉仕を団体として積極的に行うべきという奉仕実践派と言われる人たちです。これに対し、理念提唱派と言われる人たちは、ロータリアンの心に「奉仕の心を形成」することがロータリー運動の本質であり、職業倫理を高揚し自己研鑽に励み、奉仕活動は個人の立場で行うべきと主張します。ロータリーの分裂の危機とまで言われた両派の激しい論争が展開します。この対立は国際大会の場に持ち込まれ、このままでは両派の提案合戦の様を呈し收拾がつかない状態になることは必至でした。この論争に終止符を打ったのが1923年のセントルイス宣言と言われる決議23-34号です。

決議23-34号の特徴は次のとおりです。①ロータリー哲学である「奉仕の理念」を示した唯一のドキュメントであること。②ロータリーにおける全ての活動の指針を示し、ロータリークラブと国際ロータリーの機能分担を明らかにしていること。③ロータリーの哲学は実践哲学であり客観的な奉仕活動を実践する必要性を説いていること。④ロータリーの奉仕活動は個人奉仕を原則とするが一定の条件下でのクラブの団体奉仕も認めていること。本コラムでは、重要な価値のある第一項のみ掲載します。

「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情のあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」―の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである」

現在の決議23-34号のタイトルは「社会奉仕に関する1923年の声明」となっております。しかし、当初のタイトルは「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を再確認し国際ロータリーとロータリークラブにおける今後の手引きとなる原則を定めること」となっており、社会奉仕(Community Service)に関する指針として定められたものではありません。1923年当時のCommunityの意味は広く社会全体を現す言葉であり、ロータリー活動の全てに関する指針であることに着目する必要があります。

さて、次回(最終回)は、「奉仕の理念」を次の世代、未来へつなぐ意義を述べます。

チーム嶋村 ガバナー月信

クラブリーダーのみなさま、ロータリークラブカードでポリオ根絶に貢献しましょう

執筆：地区 ICT 委員会 委員長 牛島聡

ロータリーカードには個人カードとクラブカードがあることはご存知だと思います。利用額の 0.3% がポリオ根絶に貢献できます。個人カードにはコーポレートカードもあり、こちらは利用金額の 0.5% の貢献ができます。ここではクラブカードについてご説明します。

クラブカードはクラブの主となる社会奉仕活動や寄附以外にも、社会奉仕以外の活動や日常発生する経費などをカードでお支払いできます。例会場や利用施設の承諾が必要ですが、たとえば、例会費、移動例会、親睦会などのイベント費です。他にも地区大会や各種セミナーの施設料の支払いも可能です。当地区でも先日の地区大会の会場費をロータリーカードで支払いました。地区としてもポリオ根絶に直結するロータリーカードの利用を推進しております。

たとえば、クラブカードで年間 500 万円を利用した場合、0.3% で 15,000 円。ポリオワクチン約 250 人分（1本 60 円として試算）になります。ポリオ根絶へのクラブ貢献実績となります。また、実用面でもクラブにメリットがあります。仮払いや精算などの経費処理にかかる人的・時間的コストの削減ができるうえ、多数あった振込手数料もなくなり、クラブカードでのお支払いで一元管理が可能になります。

クラブカードの入会資格者は会長、副会長、幹事、会計、理事、会長エレクト、次期副会長、次期幹事、次期会計、次期理事です。当地区の 2021 年 7 月～2022 年 6 月のクラブカードの利用総額は 130,339 円でした。なお、第 2 地域では、第 2750 地区が 121,450,708 円、第 2760 地区が 93,320,169 円、第 2780 地区が 6,817,638 円、第 2620 地区が 6,306,165 円、第 2590 地区が 5,542,879 円、第 2630 地区が 4,874,397 円、第 2600 地区が 3,735,368 円、第 2610 地区が 3,191,144 円でした。この実績額から推察しますと、当地区の各クラブはロータリークラブカードへの認知と理解が薄いと思われます。

ぜひ、ロータリークラブカードの利用メリットを知っていただきご利用いただけますようご検討いただければと存じます。

参考 URL：

ロータリーダイナースクラブコーポレートカード

https://www.diners.co.jp/ja/entry_form/lp/rotary/index.html

オリコ・ロータリーカード

<https://www.orico.co.jp/merchant/rotary/index.html>

チーム嶋村「元気なクラブづくりのための鼎談」第6回：

「クラブ活性化のための地区補助金の活用法と新しい重点項目「環境」を学ぶ機会の提供」

10月7日、嶋村文男ガバナーと、吉田弘和さん（地区ロータリー財団部門 部門長）、榎本孝之さん（地区補助金委員会 委員長）とで「ロータリー財団」の鼎談を行いました。

今回の鼎談は、本年度におけるロータリー財団の基本方針と意義、クラブ活性化のための地区補助金の活用、さらに国際ロータリーの7つ目の重点項目になった「環境」についてのヒント・アイデアを提供します。12月3日（土）、タワーホール船堀にて、「地区補助金活用セミナー」と「IMAGINE ROTARY ワークショップ」を開催予定です。「地区補助金活用セミナー」では申請のための具体的なお話し、「IMAGINE ROTARY ワークショップ」では新しい重点項目「環境」についての情報提供とグループディスカッションとなります。たとえば、地区補助金の申請テーマについてお悩みのクラブにとり、「環境」をテーマとすることのヒント・アイデアがあるかもしれません。



また、榎本委員長からの地区補助金のポイントとしては下記のとおりです。

- ①対象となる事業がクラブの活性化につながるかどうかを重視しています。ほんの一部の会員だけで動いていて、他の会員は知らなかったということもたまにあるようです。みんなで参加できるような事業にしていきたいということをお願いしたいと考えています。
- ②地区補助金の相手方についてです。恩恵を受ける人数にも注視して審査していきたいと考えています。
- ③地区補助金の申請スケジュールについてです。1月、2月に行っていただきます。これは、12月に次年度の役員人事が決まりますので、次年度の役員が自身の年度の事業ということで一所懸命に考えていただきたいからです。
- ④寄贈型、物を寄贈して事業とする補助金事業が多いです。そうではなく、会員と補助金の対象となる人が一緒に動いていくという事業があれば、そちらを推奨したいと考えています。
- ⑤地区補助金は海外の事業にも使えます（グローバルグラントとは別）。現地にロータリークラブがある必要はありません。

コメントは次のとおりです。

嶋村ガバナー：「ロータリー財団を通じ、小さな寄付が貯まって大きな支援をすることは、ロータリアンとしての誇りにつながります」

吉田部門長：「寄付金から補助金へという仕組みと、お金が地区で日本で世界でどのように活用されて、インパクトを与えているかをちゃんと理解していただき、その上で寄付をしていただきたいのがガバナーの思いであり われわれの願い・スタンスです」

※ YouTube からご覧いただくこともできます（32分00秒）。下記 URL をクリック。

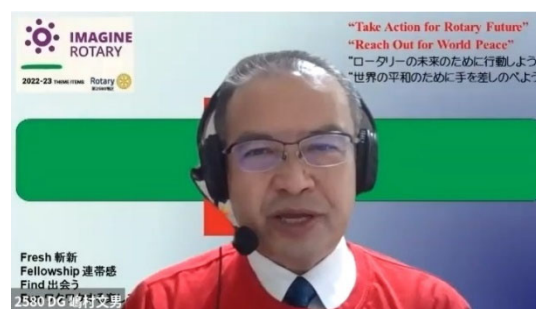
https://youtu.be/jg8FFkI_aN4

目次：

1. 鼎談の趣旨とロータリー財団の意義
2. 本年度の地区補助金の方針
3. ロータリー財団月間の卓話
4. 12月3日開催予定の「IMAGINE ROTARY ワークショップ」と地区補助金活用セミナー

1. 鼎談の趣旨とロータリー財団の意義

嶋村（敬称略。以下同じ）：こんにちは。日頃より、ロータリー活動にご協力いただき、ありがとうございます。11月はロータリー財団月間になります。本年度は10月に「世界ポリオデー2580」としまして、分区単位やクラブにさまざまな形で街頭活動をお願いしています。ロータリー財団の大きな柱にはポリオの根絶がありますが、本日の鼎談は本年度におけるロータリー財団の基本方針と意義、地区補助金の活用についてです。さらに、国際ロータリーの7つ目の重点項目になった環境についてです。私と吉田弘和地区ロータリー財団部門長、榎本孝之地区補助金委員長の3名でお話しさせていただきます。まずは、自己紹介です。吉田部門長からお願いします。



吉田：みなさん。こんにちは。地区ロータリー財団部門長の吉田です。所属は東京麴町 RC です。よろしくをお願いします。

嶋村：ありがとうございます。榎本委員長、お願いします。

榎本：東京練馬西 RC の榎本です。本年度、地区補助金委員長を拝命しました。今までに、地区社会奉仕委員会を5期ほど務めたことがあります。各クラブの補助金事業を見てきました。地区補助金委員長ということで審査する立場になります。逆の立場からクラブの補助金事業を見ることになります。楽しい1年です。よろしくをお願いします。

嶋村：ありがとうございます。ロータリー財団は、アーチ・クランプが「世界で良いことしよう」としてその構想がスタート。1917年のことでした。ロータリー財団創立100周年の年度は、国際大会がアトラントで開催されました。私はクラブ会長でしたので、たいへん思い入れ強く開催されたことを憶えています。本年度のジェニファー・ジョーンズ RI 会長は、素晴らし世界を想像し、私たちに奮起を促していると感じています。私はロータリー財団、そしてロータリーは世界の平和を目指していると感じています。本年度は地区ロータリー財団委員長の交代の時でした。前年度のうちに、吉田さんと国際奉仕のお話をさせていただき、この人しかいないと思い、吉田さんを部門長に指名をさせていただきました。吉田部門長、本年度の委員会構成を教えてくださいませんか？

吉田：5つの委員会があります。榎本委員長の補助金委員会と、資金推進委員会、財団資金管理委員会、

チーム嶋村 ガバナー月信

ポリオプラス委員会、ロータリー平和フェローシップ委員会です。

嶋村：この中でも、本日の鼎談は補助金を取り上げます。その前に、吉田部門長からロータリー財団の意義をお話しいただけますか？

吉田：1917年、ロータリー財団は設立されました。元々は26ドル50セントの寄付金からスタートしました。今年年間5億4千万ドル、とても大きな基金に成長しました。ロータリー財団活動の根幹を支えているといえます。一方、世界を見ますと、コロナウイルスの拡散、自然災害の多発、ロシアによるウクライナへの侵攻と激化が起こっています。果たして5億4千万ドルで、ロータリーの本当にやるべきこと



に対応できるのでしょうか？ 新たな課題だと認識しています。そういった中で、ロータリーが目指している方向というのは、基金を使いながら世界で社会に大きなインパクトを与えることと理解しています。出来るだけ多くの参加者を巻き込み、関わり合いを増やしなが、適応力を高めて、インパクトを強めていくのが大きな方針です。当地区も予算に限りがありますが、この方針のもとに基金を有効に活用していきます。国内の奉仕活動はもとよりグローバルグラントに積極的に配分していきたいと考えています。

嶋村：本日（10月7日）、東京板橋セントラルRCの公式訪問でした。ガバナー公式訪問フォーラムで、ある会員がこんなことを言っていました。「私たちは奉仕を通じて世界とつながっています。そのことに誇りを感じています」。感激しました。この「奉仕」をロータリー財団の「寄付」に置き換えると、小さい寄付でも、みなが少しずつ貯めることによって、大きな、世界的にインパクトのある活動につなげることできるということだと、すごく感じました。寄付の積み重ねが地区補助金、グローバルグラントになります。本年度、あえてロータリー財団への寄付金の目標額設定をしないとしました。その代わりに財団セミナーを2回開催し、理解いただいて寄付増進を図ろうと考えています。吉田部門長、この件はいかがでしょう？

吉田：本年度、寄付金の目標額を設定せず、各クラブにお伝えしないこととしたことについて、いろいろなご質問、ご意見をいただきました。意味するところは金額ありきではないということです。寄付金から補助金へという仕組みと、お金が地区で日本で世界でどのように活用されて、インパクトを与えているかをちゃんと理解していただき、その上で寄付をしていただきたいのがガバナーの思いでありわれわれの願い・スタンスです。そのために、2つの財団セミナーを開催します。地区社会奉仕部門、地区国際奉仕部門とも連携しながら、地区全体に理解をひろめていきます。それが本年度の方針です。

嶋村：地区研修協議会のアンケートなどで質問をいただいたようです。ガバナー公式訪問で回ってみると、クラブそれぞれで目標額を設定されているようです。財団セミナーを通じて上乘せを考えてほしいと考えています。榎本委員長、本年度の地区補助金の方針についてお話しいただけますでしょうか？

チーム嶋村 ガバナー月信

2. 本年度の地区補助金の方針

榎本: 本年度の地区補助金についてです。対象となる事業がクラブの活性化につながるかどうかを重視しています。ほんの一部の会員だけで動いていて、他の会員は知らなかったということもたまにあるようです。そういうことがないようにすることを重視しています。みんなで参加できるような事業にしていきたいということをお願いしたいと考えています。また、地区補助金の相手方についてです。恩恵を受ける人数にも注視して審査していきたいと考えています。申請期間はこれからなのでまだわかりませんが、世の中の動きが徐々に活発になってきています。前年度は19件の申請、認証でした。本年度はもしかするとそれをはるかに上回る申請件数になるかもしれないと考えています。まったく根拠はないですが、世の中動いていますので、クラブも奉仕も活発になっているのではないかと感じています。地区補助金の申請スケジュールについてです。1月、2月に行っていただきます。これは、12月に次年度の役員人事が決まりますので、次年度の役員が自身の年度の事業ということで一所懸命に考えていただきたいからです。申請スケジュールはクラブにやさしくなっています。寄贈型、物を寄贈して事業とする補助金事業が多いです。そうではなく、会員と補助金の対象となる人が一緒に動いていくという事業があれば、そちらを推奨したいと考えています。継続的な事業ではないかと思われる事業については、「他に無いですか?」と働きかけをするかもしれません。以上が地区補助金委員会の方針です。



嶋村: 9月17日の財団セミナーでは、継続的な事業についての質問が出ていたようです。ロータリーは奉仕の理念を携えて、社会奉仕であれば地域でどのようなニーズがあるか、皆で考えて、それをクラブに持ち込んで実施すると私は考えています。継続ということであれば、地域の他の団体が引き継いでいくのが本来であると私は考えています。会長のみなさんには、次年度の会長とも協力しながら、新しい地域のニーズを見つけてほしいです。それがクラブの活性化につながるということです。ロータリーに失敗はありません。みんなで新しいことにどんどんチャレンジして、相手方に思いやりをもって、役立つことをしてもらいたいと考えています。もう一点、地区補助金は海外の事業にも使えますよね?

榎本: はい。グローバルグラントとは別に、地区補助金は海外の事業にも使えます。この場合は、現地にロータリークラブがある必要はありません。

嶋村: 私の会長年度の翌年度、東京東江戸川 RC は米山奨学生の関係でミャンマーに学校を建設しました。当時は補助金額が40万円でしたので、チャリティコンサートを開催し、不足分の資金集めを行いました。ミャンマーの子どもたちに手を差し伸べることができました。本当に感激したプロジェクトでした。会長のみなさんには、国内だけでなく海外も考えていただきたいです。そういう積み重ねにより、グローバルグラントになれば素晴らしいことです。吉田部門長、グローバルグラントとローターアクトクラブとの関連性についてお話しいただけますか?

吉田: ローターアクトクラブは2019年の規定審議会でロータリークラブと同じステータスを得ました。

チーム嶋村 ガバナー月信

その流れの中で、RIのルールが変更になっています。本年度、2022年7月から、ローターアクトクラブもグローバルグラントの申請が可能になりました。この流れを汲み、当地区でも地区補助金の活用についてもローターアクトクラブに門戸を開くこととしました。ロータリークラブと同一の基準というわけにはいきませんが、それぞれのローターアクトクラブの実情を見ながら、地区補助金の活用を決めていこうと考えています。実際、16のローターアクトクラブがある中で、その活動内容やレベルにはかなりのばらつきがあります。春木地区ローターアクト代表ともいろいろ議論しました。ローターアクターとしては提唱ロータリークラブと一緒に自分たちの役割を果たしたい、ローターアクター同士が結束して補助金を使った活動をしたい、将来的にはグローバルグラントへもチャレンジしたいという声もいただいています。われわれとしては、ローターアクターの持つ柔軟性、革新性、多様性をうまく活かしながら、将来のロータリーを担っていく若い力を育てていきたいと考えています。各クラブの会長のみなさんには、協力していただきたいです。

嶋村：私も同感です。活動していないローターアクトクラブもありますが、提唱クラブの会長のみなさんは、地区補助金についてローターアクターとアイデア交換してみると良いのではないのでしょうか？ 榎本委員長、いかがでしょうか？

榎本：アイデア交換は面白い視点ですね。ただし、提唱していないクラブがどのようにローターアクターと接触するのでしょうか？

嶋村：それはこれからの課題かもしれませんね。地区ローターアクト委員会とも情報共有をしながら進めてみたいです。DEIという言葉がロータリーでコミットメントされています。インクルーシブな考えをするには、新しい発想が必要になります。会長のみなさんで考えてほしいです。11月のロータリー財団月間の卓話について、榎本委員長、いかがでしょうか？

3. ロータリー財団月間の卓話

榎本：11月、各クラブにて、ロータリー財団の卓話が1回は行われることと思います。従来は地区ロータリー財団委員会へ卓話者の要請をして、地区委員が卓話をするというケースもありました。9月17日に行ったロータリー財団セミナーの目的は、各クラブのロータリー財団委員長が自身のクラブでロータリー財団について卓話ができるようになっていただくということでした。11月のロータリー財団月間については、ぜひ各クラブのロータリー財団委員長が自身のクラブでロータリー財団について卓話をしていただきたいです。そのためには、地区補助金、資金の集め方など一通り勉強していただかなければなりません。9月17日に行ったロータリー財団セミナーの復習をしていただきたいです。また、地区補助金委員会としては、パワーポイント資料をお配りすることをお約束しました。現在、編集中です。こちらの資料も使って卓話していただきたいです。

嶋村：私は、地区委員に卓話をお願いするよりも、自分で卓話をするのが大事と考えています。各クラブのロータリー財団委員がしっかり理解して、クラブに発信する、そして、会長のみなさんとロータリー財団について学ぶ機会としていただきたいです。期待しています。12月3日開催予定の環境をテーマとす

チーム嶋村 ガバナー月信

る「IMAGINE ROTARY ワークショップ」と地区補助金活用セミナーについて、その関連性を含めてどのようなものかを、吉田部門長からお話いただけますか？

4. 12月3日開催予定の「IMAGINE ROTARY ワークショップ」と地区補助金活用セミナー

吉田：12月3日午前、地区補助金活用セミナー、午後、IMAGINE ROTARY ワークショップとなります。新たな学びの場とします。午前の地区補助金活用セミナーは、その考え方、申請方法についてとなります。午後は環境についてです。この新しい分野に今後、どう向き合っていくかを深めていく場にしたいです。環境は前年度からRIの重点分野に加わりました。これまでも水と衛生など、環境領域への取組みもありましたが、新たな独立した重点分野となったことで、積極的に集中的に進めていくというのがロータリー財団の考え方です。環境といえば、既に始めている清掃活動のような身近な取組、海洋汚染、温暖化など地球規模で解決すべき課題、また、持続可能な農業、漁業など社会インフラそのものを変えていかなくてはならない課題など、非常に幅の広い分野です。それ故、効果測定が難しい面もあり、補助金の活用では工夫の必要があります。海外でのグローバルグラントの先行事例を見ていると、かなり多様な試みが始まっています。中には、当地区と一緒にやりたいというお誘いもいただいています。他地区では、専門家や研究者を招いてセミナーや勉強会などを行ったりしています。本年度は重点分野である環境の初年度であると位置付けています。日本は環境技術の先進国です。日本の環境技術を活かせば、世界のロータリーの中で日本がリーダーシップを発揮できる分野ではないでしょうか？ みなさんと情報を共有し、さまざまな角度からこの環境を掘り下げ今後の方向性を探っていきます。12月3日、IMAGINE ROTARY ワークショップへのご参加よろしくお願ひします。

嶋村：いつごろ案内は出そうでしょうか？

吉田：10月中にはガバナー事務所を通じて各クラブにご案内する予定です。会長のみなさんには、12月3日をご記憶に留めていただきたいと思います。

嶋村：場所は、タワーホール船堀です。各クラブのロータリー財団委員長だけでなく、会長、社会奉仕委員長などご関心のある多くの方々に集まっていたきたいと思います。グループディスカッションでいろいろな意見を聴くことで、ロータリー感を高めたり、他のクラブの活動を通じて地域の環境問題について考えていただきたいと思います。何ができるかのアイデアを出せるようなワークショップとなるように期待しています。榎本委員長、12月3日に向けて決意表明をしていただけますか？

榎本：地区補助金委員会では、9月17日のロータリー財団セミナーよりも詳しくお伝えします。

嶋村：期待してします。ガバナー公式訪問でクラブを回って感じたことです。ロータリー財団の仕組みとして、承認までけっこう時間がかかっているようです。9月1日の防災の日に合わせて地区補助金事業を予定しているクラブから、どうしたら良いですか？とお問い合わせがありました。どうなのでしょう？

榎本：今年の承認は8月上旬となりました。地区補助金事業は承認前の支出はできません。事業の着手に

チーム嶋村 ガバナー月信

遅れたクラブもあったでしょう。やきもきしたでしょう。

嶋村：そのへんも各クラブにお伝えしたいところです。10年ほど前に、東京東江戸川 RC は東日本大震災被災地の福島の子どもたちを呼んで野球大会を申請したことがありました。実施日は7月20日ごろだったので、審査で落とされました。しかし、子どもたちに約束したことなので、実施のためにたいへん苦勞しました。ふり返れば、それも経験値となりました。最後に、ロータリー財団への思いを一言ずつお願いします。まずは、榎本委員長からお願いします。

榎本：補助金はクラブの活性化のためです。現在、クラブによっては奉仕活動が活発でない、自分のクラブでこんなことをやっていますというピーアールが難しくなっていることもあるのではないのでしょうか？ クラブの活性化のために補助金を活用し、社会奉仕活動、国際奉仕活動をしてほしいです。

嶋村：吉田部門長、お願いします。

吉田：部門長となりましてロータリー財団のことを一段と掘り下げる機会を得ました。いつも感じるのは、長年の議論の積み重ねの中でロータリーの素晴らしい仕組みが出来上がっていることです。寄付金と補助金を連動させているシェアシステムにより、ポリオプラスや平和フェローなどの活動も含め、7つの重点分野での奉仕活動が一体となって、ロータリーの究極の目的である世界平和を支えています。それぞれの活動が各地区、各クラブ単位でありながら、この仕組みで世界を結び付けているところに、個人的には感動、感銘を受けています。ロータリー財団の仕組みや寄付金・補助金の意義をご理解の上、積極的に補助金を活用いただき、ロータリアンである誇りを感じていただけることを願っています。

嶋村：どうもありがとうございます。ロータリアンとしての誇りという言葉が出ました。ロータリー財団を通じ、小さな寄付が貯まって大きな支援をすることは、ロータリアンとしての誇りにつながります。そして、ロータリアンの夢である世界の平和、また、「Reach Out for World Peace 世界の平和のために手を差しのべよう」という本年度ガバナー信条の一つへとつながります。本日はありがとうございました。

入会者情報 ～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

1. 情報収集の時期

2022年9月16日から10月15日まで（なお、入会日は8月3日から10月11日まで）

2. 入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

19名

3. 入会者の年齢層（小数点第2位切捨て）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	0	1	4	9	4	1
割合	0%	5.2%	21.0%	47.3%	21.0%	5.2%

※最年少31歳、最年長82歳

4. 入会者の性別（小数点第2位切捨て）

	男性	女性
人数	17	2
割合	89.4%	10.5%

5. 職業

銀行（信託銀行）、菓子製造販売、石材工業、不動産管理、書籍出版、精密機器輸送、ビルメンテナンス、建築塗装工、不動産仲介・管理、仏教、鉄鋼販売、酒類製造販売、金融機関、建設業、イベント企画・印刷業、観光バス業、一般防水・塗装業、教育（2名）

6. 紹介者との関係

大学の後輩・職場の後任、ビジネス上の関係（3名）、友人（5名）、共通の趣味、地域関係者、元東京あすかロータリークラブ会員、物故会員のご令孫、知人の紹介、法人会の知り合い、勉強会で知り合いその後ゴルフで等で一緒になった、ゴルフ仲間、PTA関係、職場でのつながり

7. クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）

東京（2名）、東京西北（2名）、東京新都心（2名）、東京お茶の水（2名）、東京ワセダ（1名）、東京王子（2名）、東京浅草（1名）、東京本郷（1名）、東京福生（1名）、東京武蔵村山（3名）、那覇東（2名）、以上11クラブから回答

8. 特記事項

紹介者との関係として、「友人」とするものが5名（「ゴルフ仲間」を含めると6名）、「ビジネス上の関係」（お取引先など）とするものが3名（「職場でのつながり」を含めると4名）ありました。また、物故会員のお孫さんが入会されたクラブがありました。

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

5回	松田 賢基 (浦添)	
3回	牛島 聡 (東京お茶の水) 茂手木 克央 (東京東江戸川)	青木 隆幸 (東京お茶の水)
1回	大城 裕美 (浦添)	

ポール・ハリス・フェロー

大室 貴一 (東京新宿)	佐藤 信 (東京新宿)
--------------	-------------

米山功労者・メジャードナー

20回	坂下 博康 (東京北)	
17回	海老沼 孝二 (東京江北)	
15回	瀬間 義信 (東京葛飾)	

米山功労者・マルチプル

7回	加古 博昭 (東京池袋豊島東)	林 一好 (東京本郷)
6回	松田 清明 (東京城北)	
4回	平山 洋二 (東京新宿)	
2回	山田 徳兵衛 (東京浅草)	大野 佐吉 (東京浅草)

米山功労者

長井 邦浩 (東京浅草)	澤部 利藏 (東京本郷)
鈴木 久 (東京リバーサイド)	

9月30日分まで 敬称略、順不同

心よりお悔やみ申し上げます

加藤 利雄（かとう としお）会員
東京本郷ロータリークラブ
ご逝去日：2022年9月19日 享年91
入会日：1991年3月13日
CTC Kato 技術士事務所 所長
ロータリー財団・メジャードナー
米山功労者・メジャードナー

飯野 政行（いいの まさゆき）会員
東京臨海東ロータリークラブ
ご逝去日：2022年9月29日 享年70
入会日：2019年8月27日
櫻咲㈱ 代表取締役

川畑 保夫（かわばた やすお）会員
浦添ロータリークラブ
ご逝去日：2022年9月27日 享年74
入会日：1979年10月12日
㈱沖縄教育出版 創業者
2011-2012年度ガバナー補佐
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
ベネファクター
米山功労者・マルチプル

編集： 国際ロータリー第2580地区 ガバナー月信編集委員会
ガバナー月信へのお問い合わせ／コメント： info@motoffice.jp